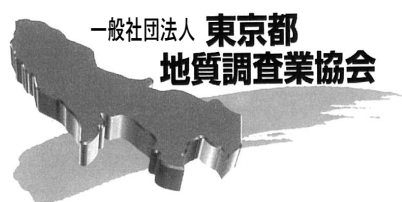


東地協ニュース 2012.6 第22号



今 思 う こ と

副会長 網 代 稔

本年5月21日に開催された第28回通常総会において、理事を拝命いたしました。

諸先輩方の築かれた本協会の要職をお受けするに当たり、身の引き締まる思いであります。

私自身、これまで協会の活動に直接的に参加したことはなく、戸惑うことばかりではありますが、精いっぱい務めさせていただきたいと思っております。ご迷惑の多々おかけすると存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、世の中は3.11の震災これに続いた原発事故以降大きく変わってきました。人の流れ・お金の流れ・仕事の流れ等々、あらゆる物の流れが変わり、選択の余地のない・受け入れざるを得ないこれらの流れが今も続いています。さらに、東海・東南海・南海に呼ばれるプレート型の大地震に加え、首都圏直下型地震の発生も想定され、都民の不安はつのるばかりです。これらに対し国を挙げて「防災」が叫ばれる今、本協会の設立の目的にもうたわれている「都民生活における安全の向上」をめざす意味からも、協会のさらなる活動が望まれるものであります。そこで、先日の総会の講演で当協会の理事でもおられる首都大学東京大学院山崎先生の言葉が思い出されます。「地震・断層に対する不安・誤解・風評の排除、「本当に危険なことはなにか」の知識の普及が必要である」。「地震は必ず来る。マスコミに踊らされない、脅しの防災から理解する防災へ」であります。正しい理解を持ててこそ大難を小難とすることができ、これこそが私たちが果たすべき活動(仕事でもある)ではないでしょうか。

我々の活動から、来るべく災害に打ち勝つ強い東京都を作ろうではありませんか。ひいては、この流れを関東、全国へ広げて行くことが本当の意味での「地震に強い日本」を作る土台になるのではないかと思います。

● 会議報告等

○ 第 28 回通常総会

去る 5 月 21 日(月)、測量地質健保会館 7 階大会議室において第 28 回通常総会が開催された。当日は会員数 24 社に対し、23 社が出席(うち委任状提出 5 社)。議事の概要は以下の通り。

- (1) 平成 23 年度事業報告承認の件
- (2) 平成 23 年度収支決算報告及び監査報告承認の件
- (3) 平成 24 年度事業計画(案)承認の件
- (4) 平成 24 年度事収支予算(案)承認の件

※ 第 1 号議案～第 4 号議案は異議なく承認された。

- (5) 役員改選の件

※ 第 5 号議案 役員改選の件について

理事、監事ともに 5 月総会にて任期満了となり、改選の結果、以下の通り決定承認された。また、総会後の理事会において、会長、副会長の互選及び各委員会委員長が決定された。

平成 24～25 年度 一般社団法人東京都地質調査業協会 役員

理 事 (11 名) 任期: 2 年

<内部理事>

会 長	早田 守廣 (大和探査技術(株))
副会長	網代 稔 ((株)ダイエーコンサルタンツ)
技術委員長	西原 聡 (中央開発(株))
広報委員長	神馬 誠 (基礎地盤コンサルタンツ(株))
総務委員長	赤澤 元重 (川崎地質(株))

<外部理事>

山崎 晴雄	(首都大学東京 大学院都市環境科学研究科 教授)
若松加寿江	(関東学院大学 工学部 教授)
桑原 文夫	(日本工業大学 工学部 教授)
塚本 良道	(東京理科大学 理工学部 教授)
片山 浩明	(東邦地下工機(株) 企画開発本部 開発部 次長)
榎本 光孝	((株)インターナショナル・サーボ・データー 会長)

監 事 (2 名) 任期: 3 年

金道 繁紀	((株)地盤試験所)
倉持 知二	((株)建設地盤)

※ 法令遵守の説明会

金道監事(前 副会長)より法令遵守の社会的使命について説明があった。

※ 総会后、首都大学東京 山崎晴雄教授(当協会理事)

より、「東京の地震と活断層—立川断層と被害想定—」について、ご講演いただいた。

<総会風景>



早田会長挨拶

<講演会風景>

講師: 首都大学東京 山崎晴雄教授



<懇親会風景 (於: 銀座ライオン) >



○ 理 事 会

1. 24 年 2 月 21 日 理 事 会

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 会員の加入促進について
- (3) 平成 23 年度事業収支(見込)について
- (4) 平成 24 年度事業計画と収支予算について
- (5) 協会ホームページについて
- (6) 東京都・小平市・西東京市・武蔵野市・小金井市合同
総合防災訓練の来場者アンケート集計結果について
(東京都総合防災部)
- (7) 帰宅困難者対策訓練への参加 報告 (2 月 3 日)
- (8) 標準的な発注方式事例の見直しについて(関東地整,
近畿地整, 四国地整)
- (9) 総務委員会関係
 - 1) 東地協ニュース No. 21 の発行について (12 月)
 - 2) 会員確保の打合せ (1 月 13 日)
- (10) 広報委員会関係
 - 1) 広報 PR 活動 報告
 - 2) 東京都財務局「設計等委託の成績評定結果の活用方
針について」説明会 報告(12 月 13 日)
- (11) 技術委員会関係
 - 1) 徒歩見学会「地質の日記念」への後援について
(街中ジョ散歩 in Tokyo「身近な地層や岩石を知ろう」)
 - 2) 次年度のボーリングマシン安全衛生特別教育講習
会について
- (12) 収支報告 (平成 23 年 11 月～平成 24 年 1 月)
- (13) 受注動向調査表
- (14) 全地連・第 4 回常任理事会 報告
- (15) 全地連・第 3 回理事会 報告

2. 24 年 5 月 21 日 理 事 会

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 第 28 回通常総会について
- (3) 技術ニュース No. 82「支部活動の紹介」執筆依頼
について
- (4) 広報委員会関係
 - 1) 防災協定(東京都)について
- (5) 技術委員会
 - 1) 技術ノート作成の工程検討
 - 2) 講演部会の行事予定について
 - 3) 総合防災訓練 第 1 回調整会議報告(4 月 20 日)
 - 4) 分析機関見学会(6 月 22 日)について
 - 5) 土壌技術勉強会(秋に開催予定)について
 - 6) NHK 取材対応 報告
- (6) 「湧水等保全審議会」委員就任依頼(国分寺市)に
ついて
- (7) 東京都都市整備局「建築物・液状化委員会」の中
間報告に関するパブリックコメント前の意見聴取
(5 月 18 日)
- (8) 収支報告 (平成 24 年 4 月)
- (9) 議会活動 10 周年を祝う会(協会顧問・大塚たか
あき氏) 報告 (5 月 11 日)

3. 24 年 5 月 21 日 理 事 会 (総会後)

- (1) 会長, 副会長の互選について
- (2) 各委員会委員長の決定

❖ 会員コーナー

震災復興の最前線を歩く

応用地質(株) 藍 隆行
(前 総務委員)

東日本大震災から1年以上が過ぎました。3月には震災1年ということでさまざまなメディアで津波の映像等が特集されていましたが、衝撃的な「絵になる」映像が少なくなるにつれ、東京からでは被災地の様子がわからなくなっています。

昨年秋より業務で被災地のガレキ処理業務に若干ではありますが関わることになりましたので現地の様子を報告いたします。

環境省では宮城・岩手で発生したガレキを両県で推計 2045 万tと見積もり、その内約 2 割を広域処理(県外での処理)したいと考えています。広域処理に反対するグループからは 1. ガレキが放射能で汚染されており危険 2. 県内に焼却場を作ればよいではないかというような意見も聞かれます。

被災地の実情はどのようなのでしょうか。岩手県宮古市の現場の様子です。



【宮古市の仮設焼却場。処理能力は48t炉×2基の日量96t】

3月から稼働を始めた宮古市の仮設焼却場では、2年間に5万3800tのガレキを処理する計画になっています。宮城・岩手のガレキ量2045万tがいかに途方もない量かわかるというものです。

プラントの現場事務所長は当初工期6か月の予定を4か月半で仕上げる事が出来た、土工を担当した大阪の某ゼネコンがこの施設の重要性を認識して突貫工事で工期を1か月短縮、自分達も工期を短縮できた。市長はじめ市民の皆さんから大変喜ばれ、自分達の復興に少しは貢献できたのではないかと控え目ながら話してくれました。突貫工事を無事故でやり遂げた作業員の士気の高さ、労務管理の見事さには頭が下がりますが、このような献身的な話は一切報道されることはありません。



【宮古市藤原埠頭における東京向けガレキの放射能測定作業の様子】

宮古市の藤原埠頭はガレキの集積地となっており、本来の港湾業務の機能が麻痺しここで働いていた多くの人たちの雇用を奪っています。ガレキ処理は地元の雇用につながるのでも時間がかかっても地元で処理すべきだと意見は机上の空論に過ぎません。

この埠頭の一角で東京向けのカレキの放射能測定を行っています。5tコンテナ2台を積んだトラックが放射能測定ヤードに来ると両側から測定業者が放射線量を測っていきます。これとは別にカレキの山からサンプルを取り出して線量を計測していました。東京向けのカレキは東京都が細かく測定方法を定めていることから大変時間がかかるとのことでした。1時間に5台程度測定していました。コンテナは陸路盛岡まで運ばれ貨物列車で東京に運搬され、カレキは処分されます。

さて、4月18日に東京都が公表した首都直下地震等に関する被害想定の見直しによると、東京都内で発生震災カレキの量は最大で東日本大震災を上回る4289万tと見込まれています。不幸にして発災した場合にはカレキの仮置き場の設置の問題や集積場の土壌汚染の問題、仮設焼却場の設置や新たな処分場の地質調査、地下水のモニタリングの対応など我々が率先して社会貢献をしなければならない現場がいくらか出てきます。そのような場面で我々東地協がどこまで貢献できるかに我々の社会的存在意義がかかっていると言っても過言ではないでしょう。

追伸: この度、人事異動により勤務地が変わり、東地協の総務委員を辞することになりました。2年間という短い期間ではありましたが東地協の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。われわれを取り巻く社会情勢は厳しさを増しておりますが、今後も東地協の発展を願ってやみません。

「会員コーナー」は、会員よりお寄せいただいた記事や写真、ご意見等を掲載するコーナーです。どんなテーマでも結構ですので、ご寄稿お待ちしております。なお、採用させていただいた方には気持ちばかりですが図書カードを差し上げます。

お知らせ

『賛助会員PRコーナー』原稿募集！

賛助会員PRコーナーがスタートしました。

協会活動を支えて下さっている賛助会員会社のお仕事、得意分野など、ご自由にPRしていただくスペースとなっております。

ご応募、お待ちしております！

※ 原稿サイズ A4 判の縦 1/2 程度 (応相談)

※ 東地協ニュースは年2回発行予定

※ なお、ご応募が少ない時には、担当者よりご寄稿をお願いすることがございますので、よろしくご配慮のほどお願い申し上げます。

☆ トピックス(協会行事紹介)

◎ 平成24年度ボーリングマシン安全衛生特別教育講習会 (4月14日～15日)

ボーリングマシン安全衛生特別教育講習会を平成24年4月14日(土)、15日(日)の2日間、東京都品川区(東邦地下工機株式会社)にて実施した。講師は昨年と同様に当協会、片山浩明理事ほか東邦地下工機殿の職員の方2名をお願いした。

14日(土)は、雨による悪天候であったが、予定時刻には、1人の欠席はあるものの、19名がそろい、早田会長の挨拶後、定刻通り学科講習を開始した。講義内容は、午前にボーリングマシンに関する知識(基礎知識・構造、運転及び点検・整備)、午後はボーリングマシンの運転に必要な一般事項に関する知識(施工・力学と電気)および関係法令・災害事例の講義を行った。受講生は、片山理事の講義を真剣に、聞き入った。

15(日)は、朝から晴となり、東邦地下工機殿の敷地内でボーリングマシンの実技講習を行った。実技講習は、ボーリングマシンを使い、実際にロッドの上げ下ろしやマシン操作時の潜んだ危険性等について実践的な講義が行われた。

実技講習終了後、2日間受講した全員に修了書の授与が行われ、講習は無事終了した。

昨年に続きほぼ定員の参加者が集まり、現場作業での安全・安心を確保するために、全員の熱意が感じられた講習会であった。今後も継続して開催していきたいと考えている。



第1日目 安全教育の講義



第2日目 ボーリングマシン実技講習

(技術委員 西川 寧)



♪ 賛助会員 PR コーナー

<第3回> 有限会社 エム・システム

構造技術の『大きな安心』をバックアップします。



急斜面上(70度)の繰返し引抜き試験



補強盛土の鉛直載荷試験



鉄道橋台の水平載荷試験

弊社は前例のない特殊な実物の載荷実験を提案させていただいております。



エム・システム

〒134-0083 東京都江戸川区中葛西7-25-7 控井ビル2F

Tel : 03-5676-0588 Fax : 03-5676-0895 e-mail : amstm@a1.mbn.or.jp

■ 会員(正会員・賛助会員)動静

(1) 代表者変更

- ・ (株)東京ソイルリサーチ
代表者：〔新〕 秋山 友昭 氏
〔旧〕 徳永 廣喜 氏
- ・ 基礎地盤コンサルタンツ(株) 関東支社
代表者：〔新〕 支社長 伴 夏男 氏
〔旧〕 支社長 大橋 正 氏
- ・ 千葉エンジニアリング(株) 東京支社
代表者：〔新〕 支社長 片平 好美 氏
〔旧〕 支社長 伊藤 博之 氏
- ・ (株)東建ジオテック 東京支店
代表者：〔新〕 支店長 佐久間 春之 氏
〔旧〕 支店長 佐々木 誠二 氏
- ・ 総合地質調査(株)
代表者：〔新〕 廉澤 宏 氏
〔旧〕 長谷川 正 氏

住所、代表者、会社名等の変更がございましたら、
お手数ですが協会事務局までご連絡をお願い致します。
(協会事務局 TEL 03-3252-2963)

▲ 行事日程

日 程	行事名・内容等
9月1日(土)	東京都総合防災訓練 防災展示 (目黒区) 会場：駒沢オリンピック公園 (予定) 内容：地盤検索, パネル展示 等
9月1日(土) 9月2日(日)	そなエリア東京 防災イベント 会場：東京臨海広域防災公園 内容：地盤検索, 液状化実験装置, パネル展示

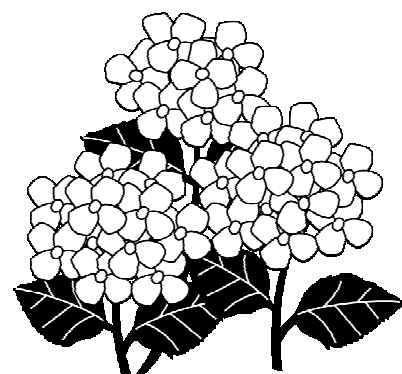
＊・＊・＊・＊・＊・＊・＊・＊・＊・＊・＊・＊・＊

・ 編集後記 ・

年齢が増すにしたがって、どんどん時間経過が早く感じるようになる・・・よく言われることですが、皆様はいかがでしょう？私は日々そのことを実感しております。ついこの前、年賀状に目を通したと思ったら、すぐに花粉症の時期、いつの間にか新年度を迎え、早くもジメジメの真ただ中・・・もう一年の折り返し点です。そんなことをボヤいている間に、夏バテになり、山が色付き、ジングルベル、そして年賀状作り・・・あと半分もあつという間に過ぎてしまうことなのでしょう。どなたか時間が経つのを遅くする（感じる）よい特効薬がありましたら教えてください。

(M. A)

＊・＊・＊・＊・＊・＊・＊・＊・＊・＊・＊・＊・＊



東地協ニュース 2012.6 第22号

発行・編集 一般社団法人東京都地質調査業協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-6-8 (内神田クレストビル)

TEL 03-3252-2963 FAX 03-3252-2971

<http://www.tokyo-geo.or.jp/> E-Mail info@tokyo-geo.or.jp